



■クラブ創立：2000年1月13日
 ■例会日：第1・第3水曜日（12：30～13：30）
 ■例会場：中部コミュニティセンター
 TEL0475-73-3337 FAX73-4360
 ■事務所：〒299-3251
 大網白里市大網450-6 ユアサビル2階
 TEL0475-70-0200 FAX70-0222
 ■会長：小倉 光夫 幹事：石田 英世
 ■広報・公共イメージ向上委員会
 委員長 大越 将司・会報担当 石田 英世

2021年11月10日(水)

第23巻 第 4号

通巻第969号

<http://www.oamirotary.com>
 E-mail rc@oamirotary.com



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

本日の例会

点 鐘 会長 小倉 光夫
 唱 和 四つのテスト
 ソング 奉仕の理想
 会長挨拶 会長 小倉 光夫
 幹事報告 幹事 石田 英世
 プログラム

①奨学金授与式 ニルシカ様
 ②11月誕生日祝い
 佐藤 博子 会員・望月 昭宏 会員

ニコニコBOX

加藤 洋三 会員

誕生日祝い有難うございます。

齋藤 幸男 会員

誕生日祝い有難うございます。

例会日	10月20日	10月6日
会員数	30	30
出席	15	19
欠席	15	11
MU	0	0
免除	7	5
出席率	73.33	80.00

会長挨拶

小倉 光夫 会長



みなさんこんにちは。

10月6日の梶原ガバナー訪問、皆様のおかげで無事終わることが出来ました。皆様のご協力に感謝します。また、準備から調整と石田幹事には大変お世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

緊急事態宣言解除となり、ディスカバー千葉・GOTO イートが18日から解除になるそうです。コロナ禍により業種も二極化が進みましたが、こ

れで県内事業が活発化する事を願っております。

本日は、ガバナー懇親会の話をしつらせて頂きます。予定時刻を超えて懇談させていただきましたが、今日は何点かお伝えしたいと思います。

委員会の活動計画書から、広報・SNSの重要性を認識しているものの現在は進んでいない状況を説明しました。ガバナーからは情報発信の重要性、常にクラブの活動を広報し評価をし、自分たちのクラブの認識を深め、新会員の獲得へと繋げていくようにしてはどうかとご提案頂きました。これを受け大越広報委員長から、「子ども食堂」への支援と共にロータリークラブの活動を広報したい旨の提案を頂きました。内容を詰め進めていきます。

次に中長期戦略についてです。梶原ガバナーからは25周年に向けてクラブのビジョンを決めてはどうか？と提案がございました。当クラブといたしましても、昨年度より中長期戦略の重要性は認識しておりましたが、どのように策定していくかはこれからでしたので、当クラブの25周年に向けたビジョンを今年度中に策定したいと思います。策定にあたり会員の皆様にはお知恵をお借りする所存です。今月末には地区大会が、来月16日にはサンライズ九十九里にて情報研究会が開催されます。まだまだ人数を抑えた開催となりますが、会員皆様のご協力を賜りたいと思います。

ネパール寄付贈呈



<個人寄付>

四之宮由己 会員
 板倉 孝雄 会員

皆様ご支援ありがとうございました。

①第7グループ「情報研究会」開催について

日時：2021年11月16日（火）

14：00点鐘

会場：国民宿舎 サンライズ九十九里

参加者：小倉会長、石田幹事、高山会員

大越会員

☆当日は Zoom でも視聴出来ます。

13:30 以降になりましたら、以下の招待 URL から参加してください。

<https://us02web.zoom.us/j/83801644738?pwd=Q1l1VWkluZTViMzRLbHJkTjV3cyt1Zz09>

もし、ミーティング ID やパスコード（パスワード）の入力が求められた場合は、以下を入力して下さい。

ミーティング ID: 838 0164 4738

パスコード（パスワード）：097107

(1) パソコンから参加する場合

以下の URL から、事前に「ミーティング用 Zoom クライアント」をダウンロードして実行してください。

<https://zoom.us/download> (Zoom ダウンロードセンター)

開始時間になったら、招待 URL をクリックして参加できます。

(2) スマートフォン、タブレットから参加する場合

以下の URL から、事前に「Zoom Cloud Meeting」をダウンロードしてください。

- iPhone / iPad:
<https://apps.apple.com/jp/app/zoom-cloud-meetings/id546505307>

- Android:
<https://play.google.com/store/apps/details?id=us.zoom.videomeetings>
<<https://play.google.com/store/apps/details?id=us.zoom.videomeetings&hl=ja>>
&hl=ja

開始時間になったら、招待 URL をクリックして参加できます。

②2022-23 年度地区委員推薦のお願い

③地区大会の YouTubeURL をアーカイブ更新

<https://www.rid2790.jp/2021/index.html>

地区ホームページトップ「2021-22 年度地区大会」パナーからも、地区大会アーカイブ動画をご覧ください。

米山学友 シュレスタ・ラジブ 様

2021 年 10 月 20 日



本日はネパールにおける新型コロナウィルスの影響と私どもの故郷における些細な社会貢献についてご紹介、ご報告をさせていただきます。

まず、ネパールにおける新型コロナウィルスの影響についてです。ネパールは中国と国境を接しているが、新型コロナウィルス感染者が世界各国に急拡大している 2020 年早々はそんなに感染者も死者もいませんでした。2020 年 5 月は 20 人前後でした。同年 10 月になって一日 6000 人をピークに波が減少していきまいた。

しかし、デルタ株でインドが苦しんだ時期はネパールにとっても災厄な時期となりました。

2021 年 5 月 12 日はピークで 9,238 人まで上がりました。

死者も一日 150 人前後で推移しました。そのあとは減少傾向になり、現在は平均 500 人前後となっています。ネパール政府はロック

ダウンによる外出禁止や国境封鎖などの強力な措置を採用していたが、陸続きであるだけにその効果は限定的でした。一方で、長らく続いたロックダウンの影響で国民が疲れ、ロックダウン中に解放されるわずかな時間帯に一斉に外出し、人混みのなかで買物をしたり、友達と雑談したりしていました。

また、日本のように消毒液の使用、石鹸で手洗い、うがい、マスクの着用など予防となる行動はそもそも習慣としてなかったのが、なかなか定着するのが難しかったです。私の故郷においては感染者がいない家庭はいなかったそうです。もちろんそこから死者も出ています。現在、ほとんどが 2 回接種を終えているが、それでも感染する人がいます。新型コロナウィルスの教育への影響という観点からみると、その影響は計り知れないと思います。政府は感染拡大予防のガイドラインを作って、各学校がそれに基づいて授業を続けてきましたが、その対応は学校によって異なります。国公立の学校ほどその対応は貧弱です。

2021 年 3 月にロックダウンされて以来全教育レベルで学校閉鎖となりました。

自治体によって先月から再開を促す動きもありましたが、今月はネパールにおいて最大のお祭り

で長期休暇があるためそんなに意味がなかったと思います。また、公立・私立の教育の格差、貧富の格差も急拡大していることが報告されています。オン

ライン授業が行っているかどうか、教師にオンライン授業のトレーニングを与えられているかどうか、生徒たちがオンライン授業へアクセスできるかどうか、生徒たちの家にインターネットがあるかどうか、生徒たちを親御さんがサポートできるかどうかなど、その要因としてあげられています。コロナ前でさえ子供たちを学校に行かせるためにいろいろな方策を練って工夫していたが、それでも登校させることはなかなか難しかったです。今後の登校率について気になる

ところです。以上はネパールの概況です。

次は、その環境下における私どもが行なっている活動についてご報告いたします。一言でいうととても厳しい状態です。現在奨学金授業を主にやっておりますが、2020 年 7 月頃

から全く生徒たちの消息を追うことができおりません。2020 年度までの奨学金を支払いました。その時 10 級は 5 名、9 級は 3 名、8 級は 5 名、7 級は 3 名で計 16 名でした。2020 年度に卒業され、2021 年に昇級する生徒を数えると 10 級は 3 名、9 級は 5 名、8 級は 3 名で計 11 名

いるはずですが、その中で、この活動に全力で協力してくれていた実姉は 2021 年 5 月 13 日（デルタ株が広がったピークの時期）にコロナのため永眠されました。

何もしてあげることができなくてただただ悔しいです。遺体は病院から軍隊に引き取られ、その後の処理はすべて軍隊任せで、どのように処理したか不明です。病院では義理の兄のみが立ち合ってきて、遺体に最後の別れができてよかったといっていますが、子供たちとは一言も話す機会がないままに帰って来ないお母さんは今でも帰ってくると思うくらい、まだ信用できないといっています。私は日本にいるからなおさらです。死んだとは到底信じられないが、現実を受け止めなければなりません。本来なら死後 13 日間にわたる細かい儀式をしないといけないものは何一つも出来ませんでした。亡くなった姉の家族もみんな陽性になったものの幸いにもみんな回復しています。みんな考えられないほど大変な目にあったと振り返っています。そしてもう一人の姉はずっと我慢して家から一歩も出ず新型コロナウィルスに警戒をしていました。学校再開の動きがあったため学校に行き生徒たちの情報を収集してくれないかとお願いしたので、2 週間ほど前に見に行ったようです。

学校は閉校のままだったようで無駄な動きでした。

その後に風邪の症状が出て、陽性が判明したのです。今は 2 週間ほどなっていて、少しずつ回復しているそうです。回復していることは個人的にすごくホッとしています。

何かあったら一生後悔し続けることになったところです。

その他の協力者も不要不急の外出をしないで家で我慢しています。

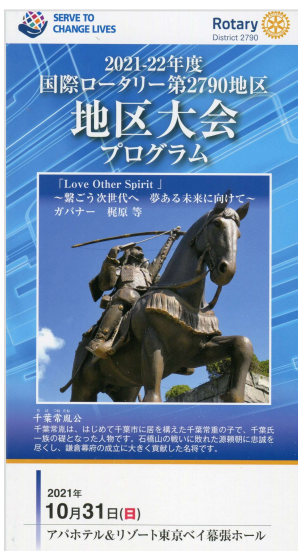
しかし、前述のように各家庭に陽性者が出たくらいでしたので、多くの友人、知人、親戚の訃報は後絶たなかったのです。現在は少しずつですが減少傾向にあります。

第 1 回理事会報告

写真提供：小倉会長



<2021-22 年度 地区大会プログラム>



地区大会出席者：小倉会長、石田幹事

このような状況なのでネパムコの活動そのものがとても厳しい状況にあります。コロナの影響、ネパムコの組織内外的な変化、財源の変化を踏まえて今後どうするかとネパールの協力者と何回か協議をしてみました。

内的変化：

1. ネパールに活動する他の NGO のふるまいは派手(給料があり、手当があり、車があり、出張があり等々)であり、それと比べて組織内に不満が多くなり、活動に支障が出ている。
2. 協力体制が良くないために奨学金以外の活動を着手できない
3. 姉の死により組織変更の必要性が出ている

外的変化：

1. 2020 年より東山ユネスコ協会から支援が打ち切られました。
2. 今年早々、四之宮お父さんから上記 1. のようなことの示唆がありました。つまり近いうちに寄付による財源がゼロになります。
3. 政府の NGO への取り締まりが強化されている。余計な家賃、その税金、授業員への給料の規定、活動の継続などにうるさくなっている。

それに、私個人的にも子育て真っ最中で、運よく今まで職を失っていないが、厳しい生活が続いている。コロナのためにできる行動も限られています。

以上のことから、ネパールでの活動をたたんだ方がいいという話があがっていて、ネパールで登録してある組織を休眠させることが決まり、私も賛同しました。政府から何か指導があったらそれに従う方向で進めています。こんな状況に陥り、自分が成功できなかった分、大網ロータリークラブの皆様はじめロータリアンの皆さんに本当に申し訳なく思っております。

しかし、「奨学金活動」だけは継続することになりました。

私は奨学金活動だけはなんとかして続けたいと思っています。私ができる「恩送り」はこれしか思い浮かばないのです。この活動はロータリアンや誰かに見せるためではなく、諸々の利害関係から自分自身の一種の義務と考えているからです。

ただ、これらの理由だけで家族やネパールの協力者に納得してもらうことができなかったのです。決定につながった大きな理由は、先月起きたことにあります。小学校 4 年生の娘は現在学校において SDG s について勉強していて、そのつながりで、先月、将来貧しくて治療を受けられないネパールの子供たちに治療するボランティアをしたいと言い出したのです。(娘は保育園卒業時に歯医者さんになりたいと宣言してしまっていて、しっかり覚えているそうです)。

これを聞いて、家族とネパールの協力者もそれまでに何らかのかたちでパイプをつなげられるようお手伝いしますと言ってくれました。それで再度協議をし、奨学金事業だけを残し、現在受けている奨学生を最後まで面倒を見ることで合意しました。そして、2022 年から毎年 9 級生 5 名と 10 級生 5 名で計 10 名に奨学金を与えていくことになりました。

財源の話になりますが、大網ロータリークラブからの支援も近々終了となることを勘案し、他の寄付金がなければ私が一生懸命に働いて必要な資金を確保すると約束し、ネパールの皆さんに協力をお願いしました。

今後の予定：

- ・ 12 月頃学校にいて各学校の事務方に奨学生について確認する。(学校に来ているか、きてなければ在籍扱いになっているか、生徒へ連絡が取れるか、連絡したか、授業料の支払い状況、オンライン授業について、生徒のオンライン授業へのアクセスについてなど)
 - ・ 学校から連絡先をもらって、連絡可能な生徒に直接電話連絡をする (現状について確認)
 - ・ 連絡先がない生徒に関しては、学校にいて面談をする (現状について確認)
 - ・ 学校に来なくなった生徒の行方を様々な方法で調べる
 - ・ 1 月頃連絡可能な生徒たちを招待し、交流会を実施 (おつまみ程度用意)
- (この場において 2021 年度に授業料支払った生徒に補填する。他の支援団体が払ってくれた人や払う必要がない生徒に一時的なお見舞い金をお渡しする。)
- ・ 2022 年 4 月に 2022 年度の奨学金を支給する。
 - 2022 年度の奨学生を確定 (8 名のはず)
 - 2022 年度用追加奨学生を確認 (2 名?)

自己満足的な部分があるかもしれませんが、日本にいながら私ができる一つの社会貢献にもなりますので、黙々と継続的に奨学金事業を進め、ネパールの識字率向上に貢献していきたいと思っております。

この決意は本日初めて公開というが宣言させていただきましたので、挫折しないように肝に銘じて継続していきたいと思っております。

最後に、継続的にご支援をいただいております四之宮お父さん、板倉孝雄様はじめ大網ロータリークラブの皆様がこの場を借りて改めて厚く御礼申し上げます。

活動についてしっかりした報告はまだできなくて申し訳ございませんが、奨学生と面談ができたなら改めて現状についての生の声をお届けしたいと思います。

以上、ネパールの現状と私どもの活動について報告致しました。

別件、校友会においては現在陰ながらサポートをしているだけです。

11 月 3 日に一つの集まりがあるようですので顔を出したいと思っております。

今後ともご指導ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。